はしがき

学校長　土屋正幸

養護学校の義務制に伴い，教育理念・教育内容・教育方法等多くの課題が派生し，その解決に努力が払われていることは，喜ばしいことである。ここ数年の教育の動向をみると，基本的理念も時代と共に人間尊重の方向をたどり，すべての者がその能力に応じて教育を受けられるという人間的・個人的な要請の面から教育の目的がとらえられるようになってきている。障害児の教育に携わってみて，従来までの教育観を変えねばならないと痛感するものがあり，あずかる児童生徒ひとりひとりを個性的かつ全体的に理解して，生きる力を育成するという人間本来の教育の確立を図らねばならない責任を強く覚える。

開校以来の歩みを振り返ってみると，初年度は何より教育課程の編成という必要に迫られ，「発達に即応する教育課程の編成をめざして」のテーマを設定して独自の教育課程作りの実践と研究に努めてきた。しかし，児童生徒ひとりひとりについて十分に実態を把握した上での編成であったかという点については自信をもって答えられないのが事実であった。従って，この反省の上に立って今後は年次ごと指導計画の改訂を図ることにし，2年次は教育課程の中心的な指導形態である生活単元学習に焦点をあてることにし，――「動き」を生かした生活単元学習の展開――をテーマに理論研究・実態調査・授業研究の三グループを構成して取り組みを始めた。「動き」を通した学習指導をすることは，子供たちの生き生きとした楽しい学習が期待でき，活動しながら生活に必要な条件を身につけさせようというのである。この場合「動き」を心情行動と身体行動の両面から，全体としての人間の発達という観点からとらえ，自発性をもった合目的的な活動のさせ方に留意して研究を推進してきた。換言すると個々人についての発達特性を十分ふまえて学習指導を展開し，子供たちが絶えず興味と関心をもって積極的に取り組み，その結果喜びと楽しみを味わう学習指導について実証的研究を試みたといえよう。

一年間の成果をまとめるに当り，教育の方法を主観的・観念的ものから脱し，客観化すること科学化することは，なかなか困難なことであることを感ずるが，わたしたちは，それに一歩でも近づくように力を傾注してみた。僅か1年の実践研究で完全に究明されたとか，十分に達成されたとかいささかも考えていない。今後継続して追跡研究をしていかねばならない課題を背負っていることの責務を感じているところであり，忌憚ないご批正とご教示をいただければこの上ない幸いと考える。

昭和57年3月1日